

日本語教育推進関係者会議

2024/12/18



自己紹介

2017年にマレーシアから第三国定住難民として13歳で来日。

RHQセンター定住支援プログラム（子供クラス）を6カ月受講。

H県に定住し、中学に入学。方言と苦闘しながら、

市の取り出し授業（国語の時間）の日本語教室で他の外国籍児童生徒と共に、外部日本語教師から漢字等の学習支援などを受けることができた。

別の地域に転居後、中学校にはそのような支援がなかったため、勉強は大変で、

社会福祉法人さぽうと21の支援を受けて、高校進学をかなえることができた。

高校では、特別入試による入学者に対する**放課後の多文化教室**で日本語等の学習支援を受けたが、そのほか進学準備のためさぽうと21にも通い、支援を受けた。

UNHCRの奨学金を得て、K大学に在学中。

支援でよかったこと

- RHQセンターの定住支援プログラムの日本語教育
(基礎日本語教育と不安の解消、自己肯定感)
- RHQセンター退所後の中学入学、高校進学、大学
進学という局面での支援団体によるサポート
- 夜間中学という学びの場

これから来日する 難民に対する支援 について

- 定住支援プログラムの後半には入学前の教科学習が必要
- 日本語・教科学習の継続的な支援
(難民は公教育を受けられていない場合が多い)
- さぽうと21のような支援機関の拡大
- 定住先地域の確定時期を早めること
(定住先地域の文化・言葉への準備があればよかった)
- 自分の日本語や教科学習のレベルがどのくらいなのかの判定
- 定住先選定時の学習環境への配慮 (夜間中学の有無など)

みなさまの支援に
心から感謝しています。

ご清聴、ありがとう
ございました。

